

## 金子（平松屋）寅吉について

郷土史家 西 羽 晃

金子寅吉（平松屋寅吉とも言いますが、以下では単に寅吉と書きます）は桑名藩の飛び領地である越後の新道村（現柏崎市）の出身です。天保13（1842）年生まれと言われます。幕末の安政元（1854）年に横浜へ出て、貿易商となりました。文献に初めて登場するのは、明治元（1868）年12月3日、桑名藩家老酒井孫八郎が横浜から青森行きの船に乗る際に寅吉が案内しています。次に2年3月7日に箱館（現函館）へ寅吉が来ています。箱館に居た元桑名藩主の松平定敬は資金が不足しており、資金を求めて東京へ連絡をしたので、寅吉が資金を持って箱館へ来たようです。

新政府軍が箱館へ攻めてくる前に、定敬は箱館を脱出しますが、その船を手配したのは寅吉でした。箱館のフランス人と交渉し、2年4月12日早朝に定敬と孫八郎と寅吉はアメリカ船に乗船します。孫八郎は横浜で下船しますが、定敬と寅吉はそのまま上海へ行きます。定敬は上海での宿泊など独りではできなかつたと思われるから、寅吉が付き添って世話をしたのでしょう。寅吉は貿易商ですから、多少の英会話はできたので船中でのアメリカ人との会話、上海での宿泊交渉、帰港交渉をしたと思います。

定敬と寅吉は5月18日に横浜へ戻ってきました。寅吉は翌日に桑名へ向けて出発し、6月5日に桑名を発って、12日に横浜へ戻ってきています。定敬が横浜へ到着し、新政府に降伏する情報をいち早く桑名へ届ける使者となっています。桑名藩は占領下ですから、藩の武士たちは自由に行動できないので、民間人である寅吉が連絡役になったのでしょう。一連の功績によって2年11月26日付けで桑名藩の御用達として地士席に取り立てられ、年給3人扶持（現米5石4斗）を支給されました。

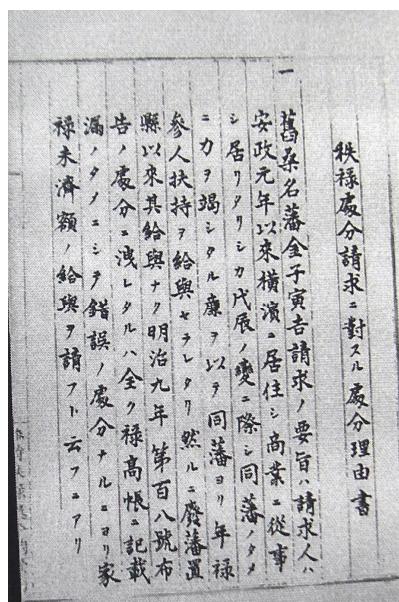
4年7月に廃藩置県が行われ、桑名藩は消滅しますが、9年に旧士族には従来への禄高に替わり一時金として金禄公債が支給されました。しかし寅吉には支給されませんでした。

最後の桑名藩主・松平定教が5年に横浜でアメリカ人から英語を学ぶ時に、寅吉が経費を出していますし、定教は横浜伊勢山宮崎町新松伊勢太郎宅に寄留していますが、この新松伊勢太郎は寅吉の親戚のようです。さらに7年に定教がアメリカへ留学するたための費用も寅吉が出しています。

7年9月には「茶売込商人 金子寅吉」の名が見えます。12年3月7日付けの横浜洋銀取引所創立証書に「神奈川県平民 横浜南仲町3丁目48番地 金子寅吉」とあり、横浜洋銀取引所の創立に参加しています。南仲町は横浜の金融界の中心地でした。14年には「南

仲町2丁目45番地「平松屋金子寅吉」が両替商として記録されています。17年に共同両替所設立に寅吉が参加していますし、横浜で外国為替に携わっていました。

31年6月22日付けで寅吉は「家禄給与願」を政府に提出しています。地士席として旧桑名藩から家禄を受けていたのに「錯誤」によって士分から「脱漏」したので、士族並の金禄公債の支給を求めたのでした。その結果は37年7月15日に「士族卒以外の身分なので支給されない」との決定がなされました。なお31年に「家禄給与願」を提出した時の住所は「横浜市宮崎町54番地 平民 金子伊勢太郎方同居」となっています。



「公文雜纂」(国立公文書館所蔵)より